

障害者雇用を応援 摂津に貸農園開園

エスプールのプラス、来月に

障害者雇用に取り組み企業向けの貸農園「わーくはびねす農園 plus おおさ



6月1日に開園する「わーくはびねす農園 plus おおさか摂津」＝摂津市

か摂津」が6月1日、摂津市で開園する。事業を全国展開する「エスプールプラス」（東京都千代田区、和田一紀社長）による関西初の農園。地域、企業と連携し、障害者が生き生きと働ける場所として定着をはかるとしている。

3階建てのビルをリノベーションした延床面積約1700平方メートルの屋内型農園で、90人の就労が可能。屋内型農園は天候の影響を受けずに作業できる利点があり、スチールラックに備えられた水耕装置など障害者が作業しやすい設計にもなっている。すでに「栗原工

業」（大阪市北区）など6社と契約。意欲と適正がある人材をエスプールプラスが面接などで掘り起こし、契約企業に雇用してもらう形をとる。

新しい価値を生み出す障害者雇用を目指す事業で、同社が最初の「わーくはびねす農園」を千葉県で開園したのは11年前。以来、障害者が働きやすい農場運営のノウハウを蓄積し、全国24カ所を増えた。農園を活用する企業は約350社に上り、約2千人の雇用を創出している。秋には枚方市で屋外型農園を開設する。開設に向けて28日に摂津市を訪れた和田社長は「農園の運営を通じて、障害者雇用に取り組む企業を支援するとともに、障害を持つ人の選択肢を広げることにも貢献したい」と話した。